

1 学校教育目標

○進んで学ぶ、深く考える子供 ○ 思いやりをもって行動する子供 ○ 体をきたえやりぬく子供

2 めざす学校像、児童像、教師像

○学校像	○ 子供一人一人の可能性を引き出し、伸ばせる学校 ○ 地域・保護者・子供から信頼される学校
○児童像	○ 勤勉な子供 ○ ルールを守り、礼儀正しい子供 ○ 他者を思いやる子供 ○ 夢を育む子供
○教師像	○ 教職としての専門性を高める教師 ○ 自他の人間性を高める教師 ○ 組織で教育を実践する教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状>

◎学校について

[よさ] 10周年の周年行事を控え開校10年目となった。児童、保護者・地域の方々には、本校の教育活動の実績を評価していただいていることを教職員は感謝し真摯に受け止めている。この評価が子供たちと共に学ぶ組織として日々の活力と充実感の源となっている。保育園、幼稚園・小学校・中学校との連携を礎として15年間の継続した連携を深め実践した。結果、光が丘地域の核として情報等を発信することができ研修の成果が現れた。教職員の「地域と共に児童を育成する資質」が向上し、さらに児童の学力、体力向上にもその成果が表れ始め、区内小中学校に向けて、その成果を発信できる環境が整ってきた。

[課題] 統廃合後の教員異動が一段落を迎えたと同時に、教員年齢層が下がり新規採用者の割合が多くなった。児童の基礎学力・基礎体力を定着させるため教職員の意欲を高めるべく学校経営方針の具現化に向けて組織力を強化し、ミドルリーダーの育成及び若手の育成を図り、初等教育の礎に携わっていることを踏まえ教職員一人一人が主体的に関わりOJT、Off-JTの活用を駆使して取り組む。昨年度より特別支援教室が開室した中で、巡回指導教員との関わり、児童一人一人に寄り添いながらしっかりと認識し、経営を行う。

◎児童について

[よさ] 全体的に素直で明るく、授業は真剣に取り組む。諸活動・諸行事は積極的に活動している。

[課題] 「みどりの風吹くまちビジョン」「練馬区教育・子育て大綱」を推進する中で、自分の思いや考えを積極的に伝える力、言語活動を通じて表現する力が不足ぎみな児童が各学年に若干名在籍、この割合を全校で一桁台に減少させる。保育園・幼稚園から入学する児童に対し適応指導の充実を図り、児童同士の好ましい人間関係を構築する。生育段階に対応してキャリア教育の推進、学力、体力の向上を図る。いじめ問題は皆無ではない。常日頃より、児童の動向を把握し、いじめ絶滅、予防・防止策をとる。巡回指導教員、SC、心のふれあい相談員、生活支援員等の連携を深めしっかりと児童を育成していく。

◎教師について

[よさ] 一人一改革を提唱し、教員一人一人が個々の可能性を伸ばす研鑽に努め、小中連携や校内研究を基盤に若手の人材育成に加え、自らの研修課題に取り組んでいる。

[課題] 新学習指導要領に対応し、特別な教科道徳、外国語教育等、教職員全体の資質向上、教員力の育成を図る組織的な「OJT、Off-JT」のさらなる充実を図る。

◎保護者・地域について

[よさ] 在籍する児童の保護者は、児童の教育に非常に関心があり熱心である。要望も多様である。保護者と教職員の会、学校応援団、避難所拠点連絡会、地域も含めて学校に協力的である。

[課題] 教育に関心がある＝多様な要望、期待度が高い。これら要望等に応えるべく保護者と教職員との活動をさらに活性化させるとともに、保護者・地域参加型の具体的な活動、立案の充実を図る。

<前年度の成果と課題>

○自ら考え、意欲的に取り組む生徒の育成：学校評価からも教育活動すべてにおいて積極的で、「伝える力」を身に付けるよう対話力を鍛え上げてきた。優しい言葉遣いの推奨も地域全体に呼びかけ実践してきた。今年度も、児童自らの優しい言葉で相手に伝え、思いやる心と「怒」を育ませる。

○自ら変革する教師の育成：小中連携・校内研究の研鑽を活かし教師の授業力向上、資質向上の取組を図ってきた。10周年を迎えるに当たり伝統を継続するためにも、ミドルリーダーを組織的に育てあげ、さらに強固なものとするためにOJT、Off-JTを駆使し人材育成を図る。

○学校・家庭・地域による協働の推進から信頼ある学校への構築：今年度は、小中連携の枠組みが小学校2校増え4校での取り組みとなる。近隣の保育園・幼稚園、中学校、高等学校と連携してさらに地域との密着を図り、信頼度を深めていく。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間 (長期的経営)			
		31	32	33	34
1	人権を尊重する教育	○	○	○	○
2	児童の可能性を引き出し伸ばせる教育（児童に夢を与える教育）	○	○	○	○
3	小中連携に加え保育園、幼稚園との連携を深め、15カ年を見通した教育に努める。	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1 人権を尊重する教育

A 今年度の成果目標

達成基準

- ・教育活動の中心に児童を捉え、児童の人権を尊重し守る教育を推進する。特に、言葉遣いや心の豊かさを大切にし、教育公務員として資質向上を図る。
- ・日々、教職員は自己研鑽に励み、専門性の習得、資質向上、総力をあげ信頼される学校づくりを目指す。
- ・教育目標とめざす児童像の具現化に努め、「子供の夢を育む学校」を目指す。

- ・いじめの予防、早期発見、解決の徹底
- ・児童理解に努め不登校・不適応の0を目指す。
- ・学校評価アンケートで学校が好きの項目を9割以上とする。

B 前年度の取組内容

項目	具体的な方策
・人権教育	①教育活動の中心に児童を捉え、特別な教科「道徳」の充実を図った。 ②「伝える、伝わる」「一人一改革」をテーマに児童理解に努め、児童と接する機会を多くもち、多方面からの情報を摂取し、児童理解に努め、個々の良さや個性・特性を生かして伸ばす努力を行った。(コミュニケーション能力の向上と児童理解)
・言語表現活動の充実	①各学年、学級では特色ある教育活動(自ら考え、学び、調べ、伝え、そして伝わる表現等の言語力を活かした)を工夫し自立する児童を育成した。 ②「聴き方名人」「話し方名人」を全校全学年統一化し、共通理解として進めた。

C 前年度の成果と課題

- 成果** ・特別な教科「道徳」の充実、優しい言葉遣いの推奨「伝える、伝わる」「一人一改革」を中心に児童理解を努めることを中心に展開することで、児童同士のコミュニケーション力が向上した。
・「聴き方名人」「話し方名人」の統一化により、児童の落ち着きが見えてきた。
- 課題** ・自分の思いや考えを積極的に伝える力、言葉を通じて表現する力が不足ぎみな児童が若干名見受けられる。家庭とも連携しこの割合をさらに減少させる。特別支援教育の充実を図り、保育園・幼稚園からの接続ポイント探り、生育段階に対応して基本的生活習慣の確立が課題である。

D 今年度の目標実現に向けた取組

項目	達成基準	具体的な方策
・人権教育の徹底	・いじめ、言葉による暴力の予防と早期発見、解決 ・特別な教科「道徳」の時数確保	・児童理解を充実させ、特別支援コーディネータ、スクールカウンセラー、特別支援教室専門員、学校生活支援員、学校生活臨時支援員との連携を密に行う ・特別な教科「道徳」の適切な評価の研鑽を積む。
・言語表現活動の充実	・「伝える、伝わる」を基盤とした「聴き方名人」「話し方名人」の徹底	・各学年の生育段階を踏まえ、縦割り教育「なつくもスマイル」や全校集会、全校で取り組む行事を活用して異年齢集団で思いやりの心を育ませる。 ・「恕の心を育て、優しさと美しく優しい言葉遣いを」をテーマに運営する。

重点的な取組事項－2		児童の可能性を引き出し伸ばせる教育（児童に夢を与える教育）	
A 今年度の成果目標		達成基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の可能性を引き出し伸ばせる学校づくり ・体験的な学習を通し、互いに認め合い、高め合う経験をもたせ多様な人間関係を育てる。 ・規則を守ることの意義を理解させ、自らを律することのできる児童を育てる。（授業時間の始終の徹底＝授業時数の確保） ・情操教育の充実（学芸会・音楽会・なつのかも音楽会・ミニコンサート・音楽集会・展覧会等）の取組を通じて心に潤いをもたせる。 ・教師の授業力を高め、児童が分かる授業を実践する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校への満足度 90%以上を目指す。 ・多様な体験学習を味わわせる。 ・学芸会・音楽会と展覧会の実施 ・月一回の音楽集会と各学年に応じたミニコンサート実施（音楽専科と各学年の連携）図画工作作品の校内展示 ・適正な年間指導計画・評価計画に基づく確かな学力の定着で6割以上の児童がテストで9割を超える得点を目指す。 	
B 目標実現に向けた取組み			
項目	達成基準	具体的な方策	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年、生育段階に適応する言語活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「聴き方名人」「話し方名人」の表記を発達段階に合わせ学年ごとに明確にする。 ・読書活動として年間に5冊以上の本を読破させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本を押さえ、課題に正対する姿勢を育てる。 ・自分の考えを的確に伝える力を身に付けさせ個々の学力を定着し、学力向上を目指した学習支援に取り組む。（未来塾等の活用） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック教育の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎体力の向上を図る。（スポーツテストの数値を向上させる、校内研究） ・アスリートの招聘 ・外国語教育の充実 ・国際理解、人権教育に関わる活動を充実・定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会合の内容、目的を明確にする。 ・年に2回アスリートを招聘して競技の姿を見せる。 ・ALT、外国語アドバイザーと連携して外国語に親しませ、国際理解・人権教育に関わる活動を充実させる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全で豊かな心を育む 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週の全校朝会時に「美しい言葉」「挨拶」を基本とした「恕」「やさしい心」を育てる内容を継続的に講話する。 ・校舎内外の緑化活動を実施 ・学校生活内で校内や通学路等の危機管理を徹底把握し、未然防止、事故等のゼロを目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい言葉遣いで指導を中心に、教職員と児童、児童と児童間で豊かな心の交流に努め、優しい心を育てる。 ・「報告」「連絡」「相談」を徹底し、教職員間の連携を密にし、災害・事故等への適切な対応ができる校内体制および教育計画の再確認と作成を確立する。 ・危機管理の事案に対し、予防・早期対応・解決に取り組む。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・サービスの厳正・信頼される学校づくり ・学校だよりの発行 ・ホームページの更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス事故0を徹底し目指す。 ・月1回の発行 ・行事、日々の出来事を取り上げ随時更新する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員は、児童・保護者・地域との信頼関係に基づいた厳正なサービスを遂行する。 ・サービス研修を充実し、定期的に研修を実施する。 ・教職員は教育の専門職として進んで研修に励み、その資質向上を常に心がけ、保護者、地域からの信頼を得られるよう教育実践を積み重ねる。 	

重点的な取組事項－3	小中連携（小中連携＋保育園、幼稚園との連携を充実し、授業改善を進め、円滑な連携・接続を推進し教師の指導力向上を図る。）	
A 今年度の成果目標	達成基準	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小中 15 年間を踏まえ教科等の系統性を捉えた連携を礎に授業改善を進め、円滑な連携・接続 を推進し学力向上を図る。 ・ 特に小中連携を基盤に教師の指導力を向上させ、9 カ年の接続のポイントをつかみ定着させる。 ・ 年間指導計画・評価計画に基づく授業時数の確保、授業の始終時間を守る。 ・ 児童の確かな学力・体力の向上と教師力の向上を図る。 ・ 幼稚園、保育園との教員同士の連携、交流を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携研修＝年 4 回（合同） ・ 小中連携研究授業＝年 2 回 ・ 連携推進委員会研修＝年 5 回 ・ 児童生徒による挨拶運動＝年 2 回 ・ 文化的交流＝音楽会への出演（中学校の参加） ・ 体育的交流＝運動会の準備（中学校の協力） ・ 課外活動交流（中学校の部活動への見学及び参加）＝年 3 回以上 ・ 保育園、幼稚園の園児、幼児、児童交流 	
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中連携研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合同研修(全体)：年 4 回 ・ 研究授業：年 3 回 ・ 教科研修：年 5 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接続のポイントを各研究授業及び年次に関係する研究授業の指導案に取り込む ・ 9 年間の指導方法・評価計画の検討 ・ 学力定着及び向上に結びつく接続のポイントを授業指導に結びつける。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 カ年を通じて小学校から中学校への接続のポイントを定着させ意欲的な学習習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相互の授業研究＝年 4 回 全教科で取り組む ・ 中学校見学＝2 回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上・定着を図り、通過率向上を目指す。 ・ 中学校の教科に合わせ、教科毎の連携研修とする。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上を目指した学習支援の充実（連携を軸とした支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いの公開授業を通して指導力を高める＝年 3 回 ・ 進路、進学に関する情報提供 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9 カ年を見とおした小中連携交流の基盤を通じて指導力及び教師力向上を目指す。 ・ 授業研究により授業力の向上を目指す。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 組織力の向上（OJT, Off-JT 駆使し人材育成を図る。） ・ 働き方改革等によるワーク・ライフ・バランスの推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部講師年 6 回を招聘する。 ・ 若手教員の育成 ・ 教職員のワーク・ライフ・バランスによりモチベーションを向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ OJT 委員会を充実させ、新任、若手教員を育てる。 ・ 年次研修、教科別研修への参加（Off-JT） ・ 週一回のノー残業デーを設定し教員個々のライフワークを大切にす。 ・ 年 6 回の主幹・主任教諭からの OJT を実施する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 適性な年間指導計画及び評価計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎週週案を提出(100%) ・ 授業観察及び助言 ・ 標準授業時数の 100% 確保、適正な評価評定基準の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の進捗状況を把握し、教育課程を遂行させる。 ・ 教育課程の進行および教育活動の改善・助言を行い、授業の進捗状況を把握する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 心の教育（自己肯定感、有用感の向上に寄与する。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ いじめ根絶 ・ 不登校、不適応への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り学級方式で、学校行事等におけるリーダーの育成を図る。 ・ 異年齢集団活動の推進（なつくもスマイル）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力向上を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巧緻性と持久力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巧緻性：共通のトレーニングとしてコーディネーション運動を活用して体力向上を図る。 ・ 持久力：全校持久走大会、長縄大会を実施。